



南アフリカ新聞号外⑦

SABONA

鈴木 壮太

時々、協力隊に参加しようとした理由を聞かれることがあるので、ここに書きます。

なぜ協力隊に？

協力隊に応募した理由は、以前から国際協力について興味があり、発展途上国のために何か力になりたいと思ったから。というような立派な理由ではありません。本当のことを言うと、私は元々国際協力についてまともに勉強したこともなく、そこまで強い関心もありませんでした。ではなぜか。簡単に言うと、今しかできないことに挑戦したいと強く思うようになったからです。とても自分本位な考えなので、人に協力隊に参加した理由を聞かれると答えに詰まってしまうのが正直なところです。

私は社会人に成り立ての頃、海外の旅や生活について書かれたノンフィクションを読むのに凝ってしまい、たまたまどこかの書評サイトで紹介されていた「パリでメシを食う。」という本を買って読みました。内容を大雑把に言うと、著者の川内有緒さん含み、パリで生きる数名の日本人の生き様が書かれた本です。この本を読みながら、「この人たちカッコいいな～。自分も海外で彼らみたいに生きてみたい！」などと、笑われてしまうかもしれませんが1人で考えていました。この本が、私が海外に対する興味をもつ1番のきっかけとなったのは間違いなさそうです。

自分のそれまでの経験を振り返っても、大きな挫折も、必死に何かに取り組んだ経験もとくに思い出せません。それは、それまで何かに挑戦することもなく、何となく過ごしてきたからのように思い

ます。高校も大学も少し勉強すれば入れそうな学校を志望。大学時代も何となく過ごし、過ぎ去り、そのまま教員になりました。教団に立って将来を担う子どもを指導していくには自分の経験値が少なすぎました。もちろん4年間の学校現場では同僚の方々に感謝しきれない程お世話になり、指導をいただき、私自身努力もしてきたつもりです。現場で働いた4年間で、生きてきた中で最も充実した日々であったのも確かです。しかし、なかなか自分に自信をもてずにいました。そのため、挑戦したいことに向かって考え、行動に移せる自分であることを確かめることで、自分に自信をもたせたかったのかもしれませんが。

今までは、一度は行ってみたい場所、やってみたいことが本当はあるのに、「でもそんな時間ない」とか、「でもきっとそんなことにあまり価値はない」とか、「でも失敗して後悔するかもしれない」とか、とにかく「でも」という言葉を使って諦める理由を探してばかりでした。しかし今はそういう自分を少しずつ変えられている気がします。

教員4年目に担任したクラスの学級目標は「自分から進んで」というものでした。たまたま私自身の目標と重なったこともあり、いつも以上に児童に学級目標を意識させながら1年間指導していたことを思い出します。やっとここに来て私もこの目標に近づいている気がします。残りの任期、全力で活動をし続けたら、目標達成ということにします。

担任していた児童からもらった手紙を時々読んで自分に喝を入れます。

さびしくなったらわたしは3年組のことを思い出してください。きっと元気にやり取り。自分から進んでなににもチャレンジしよう!

南アフリカに行く聞いてびっくりした! 家に帰って南アフリカはどこにあるか調べてみたら夕日よりもインドよりも遠かったのよ! けにさびしく思いました。でも新しいチャレンジをするぞうた先生を応援しています!! 南アフリカの子どもたち